

多古町千田の台遺跡（1）

事業名 圏央道（大栄～横芝）
所在地 香取郡多古町千田字屋倉155-1の一部ほか
調査期間 平成29年4月6日～（調査中）
調査面積 3,967㎡
主な時代 奈良・平安時代、中世
主な遺物 奈良・平安時代土師器・須恵器・鉄製品・石製品
主な成果

東地区（約2,000㎡）の調査では、縄文時代陥穴2基・炉跡2基、奈良・平安時代竪穴住居38軒・土坑（墓や貯蔵などを目的に掘られた穴）約20基、中世台地整形区画10か所・土坑約60基・溝2条などが検出されました。8月5日（土）には遺跡見学会を開催し、約150名の参加者がありました。当日の配付資料は、[ホームページ](#)に掲載しております。

出土した土器等から、基本的に奈良時代は大型で深い竪穴住居、平安時代は小型で浅い竪穴住居となっています。また、平安時代の小型住居には柱穴のないものも多くみられます。一方、東側は竪穴住居が重なり合って密集しており、さらに南北に分かれるようです。同じ区域で竪穴住居の建て替えが頻繁に行われたのでしょう。

また、中世の整形区画が多く設けられ、内部には土坑が多く掘られて、子馬を埋葬して石塔のかけらを入れた墓穴も見つかりました。中世の多古地域には、「千田荘」と呼ばれた、千葉氏にゆかりの深い荘園がありましたが、この遺跡が所在する「千田」という地名からも、当時の中心地の一部だったかもしれません。これから続いて調査する西地区は、中世の遺構が主体であり、今後の調査に期待されます。

遺跡全景は、8月後半にドローンで撮影した空中写真です。



遺跡全景（上が北）



奈良時代の大型竪穴住居跡



平安時代の小型竪穴住居跡（柱穴なし）



奈良時代の須恵器杯蓋